

授業科目 発達障害作業療法評価学演習

科目コード番号

【担当教員名】 永井 洋一	対象学年	2	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【概要】

発達障害とは人生の初期に受けた障害が個人の生涯にわたってさまざまな能力に大きな影響を及ぼすものであり、成人期の障害と異なるさまざまなニーズが存在する。これらのニーズを正確に把握し、作業療法の治療が有効かつ効率的に行われるためには、作業を遂行するための要素と作業そのものの遂行を評価し、問題点を抽出し、作業療法治療プログラムを立案しなければならない。しかも、多くの場合小児が対象となるので、彼らの発達の特性に適合するよう、評価や治療を実施する必要がある。発達障害作業療法評価法の授業と並行して開講される本科目では、実習用の人形や学生相互を対象として実習することにより、主な評価方法の基礎的技術を身につける

【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	作業療法学全書第3巻 作業療法評価法	日本作業療法士協会	協同医書出版社	2000年
	作業療法学全書第6巻 発達障害	〃	〃	2000年
参考書	発達障害と作業療法【基礎編】	岩崎清隆	三輪書店	2001年
その他配布資料	各評価のマニュアルなどをコピーして配布する			

【評価方法】

出席(10%)、授業への積極的参加(10%)、レポート

【履修上の留意点】

1年次の人間発達学を履修していること。発達障害作業療法評価学と並行して開講されるので、十分に関連づけて学習する必要がある。子どもの観察と報告レポートを課す(詳細は授業中に説明)

【本科目の一般教育目標：GIO (General Instructional Objective)】

発達障害に対する作業療法の評価が遂行できるために、正常発達に関する基礎的知識と、それらの障害を評価するための知識を身につける

【行動目標：SBO (Specific Behavioral Objectives)】

1. 子どもと接するときに必要な態度を模擬的にとることができる
2. 発達検査を手引き書に頼りながら模擬的に実施できる
3. 運動・姿勢発達の評価を模擬的に実施できる
4. 目と手の協調運動の発達評価を模擬的に実施できる
5. 知覚・認知の発達評価を模擬的に実施できる
6. 心理社会的発達の評価を模擬的に実施できる
7. 日常生活活動・適応行動の発達評価を模擬的に実施できる
8. 正常発達の知識に基づいて仮説を立てた上で、実際の子どもの様子を観察して報告書にまとめることができる

授業計画

教室

	授業内容	SBO 番号	担当教員	教授学習法	学習課題 又は 備考
1	オリエンテーション、子どもとの接し方	1	永井	講義	12月までに正常な乳幼児の観察計画を立案し、教員の認可を受ける。長期休暇中に観察を実施し、1月中に発表会を行う。
2,3	発達全般の検査（JDDST, 津守式、遠城寺式など3種類）	2		演習（グループ）	
4,5	運動・姿勢発達の評価（ミラニ=コンパレッティなど）	3		”	
6,7	目と手の協調性発達の評価	4		”	
8,9	知覚・認知発達の評価（フロスティッグ、J-MAP など）	5		”	
10, 11	心理社会的発達の評価	6		”	
12	日常生活活動・適応行動発達の評価	7		”	
13, 14	子どもの総合的評価 観察結果の発表会	8		” 発表、討議	

その他

グループ毎に評価実技の実習を行う。対象となる子どもの年齢を想定し、まじめに被験者を演じる。評価する側・される側のできばえをお互いに評価し合う。